

令和6年度

自信をもち 自分の力を発揮する子

<学校経営構想 Ver.2.3>

R6.1.30



菊川市立小笠南小学校

I 県と市の教育

<静岡県 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱>

「有徳の人」の育成
～誰一人取り残さない教育の実現～

- ◆知性・感性・身体能力など、自らの個性に応じて「才」を磨き、自立を目指す人
- ◆多様な生き方と価値観を認め、自他を大切にしながら「徳」を積む人
- ◆「才」を生かし「徳」を積み、社会や人のために貢献する「才徳兼備」の人

<菊川市 教育大綱>

豊かな学びで歩み続ける人づくり

- ◆自立した人
- ◆思いやりのある人
- ◆いつまでも学び続ける人

「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進

II 学校経営

1 学校経営の基本理念

どの子どもも多様な可能性をもっている。自分の良さに気づき、自信をもち、自分の良さをさらに伸ばそうとする力をもたせたい。

努力が報われないこともある。そのようなとき、自分で自分を励まし、折れることのない強さを育成し、自立できる子どもを育てる。

(1) 子ども：「できる・身に付いた、と自信をもって言える」

- 知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度・人間性
- 「学校が楽しい」
- 昨日より今日、今日より明日の進歩を実感する。
仲間や地域のために役立とうとする。

(2) 保護者：「子どもの進歩がわかる」

- 我が子が伸びているという実感をもつ。
学校側の手立ての発信を受け、同じ方向を向いて進む。

(3) 地域：「学校と共に子どもを育てているのがわかる」

- 協力したい、応援したいと思える。

(4) 教職員：「授業力・人間力が伸びたことがわかる」

- 経験年数・特性にあった計画的研修
子どもから学ぶ
指導技術の伝承 自ら求めて学ぶ姿勢

2 校訓

「考える子 優しい子 強い子」

平成18年度から14年間本校の教育目標であり、令和2年度からは校訓として位置づけられた。本校の校訓は、情報化やグローバル化といった社会変化にも、子ども一人一人が主体的に向き合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会を切り拓き、未来の担い手となることができる「生きる力」の育成につながるものである。

- 考える子（知・確かな学力）… 自分で考え わかりやすく表現する子
- 優しい子（徳・豊かな心）… 人との関わりを大切にする子
- 強い子（体・健やかな体）… 丈夫な体をつくり 自信を持って行動する子

3 学校経営方針

めざすのは「『子どもと職員の笑顔があふれる学校』の創造」である。大切なのは、子どもも職員も「学校って楽しい！」と思えることである。人は、自身が「進歩している」「役立っている」と感じたとき「楽しい」と感じる。

私たちは、「進歩したい」「役立ちたい」とする意思や努力を「グッジョブ」という言葉で価値付けていく。

「楽しい」という思いは、進歩の結果に対してあるのではなく、進歩を生み出した自分自身にこそ生まれる。私たちは、子どもの意思や努力を「グッジョブ」という言葉で価値付けることを通して、子どもの心に「進歩(役立つ)へのチャレンジをしてよかった」「進歩(役立つ)したな」「自分もけっこうやるじゃん」「自分も捨てたもんじゃない」「人のためになるってうれしい」という思いを実感させていきたい。

4 学校経営目標

「子どもと職員の笑顔があふれる学校」の創造

- (1) 誰もが安心して生き生きと楽しく活動する。
- (2) 授業に主体的に取り組み、学びの実感をもつ。
- (3) 仲間と協力し、創造的で活力ある行事や特別活動を創りあげる。
- (4) 基礎学力の定着をめざし、「自分ごと(自分の事)」になる学びの姿を探求する
- (5) 教師が使命感をもち、同僚と協働し子どもと共に成長する。
- (6) 学びを地域に開き、保護者・地域に信頼される。
- (7) 安全・安心を基盤に、教育効果を高める環境を整備する。

5 学校経営の重点（教育課題）

<子どもの実態>

- 素直に何でも一生懸命に取り組む
- 友達を思い合い、助け合いができる
- △自分の思い、考えをもつ力が弱い
(深い意見交換ができない)
- △クラス内でのポジションが固定化され、
向上心に欠ける

<菊川市【学びの庭】構想>

岳洋学舎（3小学校、中学校、こども園）との縦の接続と地域のコミュニティとの横の連携

- 1 「学舎」でめざす子ども像を共有し、同じ方向性をもった一貫教育を行う
- 2 地域住民がもつ力を生かし、子育てをしやすい地域を実現する

<磨きたい資質・育みたい能力>

1 自己決定力

・困っていることに対して、自分で解決策を決定し、粘り強く解決しようとする。

2 分析力

・比較して考える。関連付けて考えて深い学びに向かう。

3 人間関係形成能力

- ・相手の思いや考え(立場)を受け入れ、自分の考えと練り合わせ、よりよくなるようとする態度
- ・集団で目標に向けて高めていこうとする姿(個と集団のスパイラル)



「自己肯定感」「自己有用感」

学校(学舎)教育目標 「自信をもち 自分の力を発揮する子」

1 「進歩したい」「役立ちたい」と努力するチャレンジに「グッジョブ」!

- (1) 自ら学ぶ子の育成【学びづくり部、校内研修】
 - ア 対話で解決・追究をする。(表現力の育成)
 - イ 「もっと学びたい」と感じる授業をつくる。

- (2) 子どもが主役、自分たちで考え創りあげる学校行事・特別活動【心・体づくり部】
 - ア 主体的に取り組むための児童会活動を工夫する
(南小パワーアップ大作戦、ペア活動、異学年との交流等)
 - イ 学級経営の充実を図る。 → 支え合い、高め合う集団に
(表現力の育成)

- (3) 「元気で明るいあいさつ」と「美しい日本語」【教育活動全体】

2 岳洋学舎の取組を通して、地域や他校とつながることで「グッジョブ」!

- (1) 地域と共に、子どもを育てる

- (2) 岳洋中、小笠北小、小笠東小、こども園等との一貫教育を進める

3 信頼される、頼もしい教職員に「グッジョブ」!

- (1) 教師として大切なこと(使命感、倫理観、専門性)を意識する

- (2) 校内研修の充実と研修の日常化で「授業力の向上」を図る (表現力の育成)

- (3) 働き方改革で、ゆとりの時間や自分を高める時間を生み出す

4 生徒指導の基盤＝特別支援教育の充実で「グッジョブ」!

- (1) 人間尊重(人権)の教育を基盤とする

- (2) どの子にも特別支援教育の考え方で接する

- (3) 個に配慮した的確な指導を、全職員の共通理解と組織的な対応で進める

5 安全・安心な教育環境整備で「グッジョブ」!

- (1) ユニバーサルデザインの考え方を生かした教育環境整備をする

- (2) 保護者や地域に対して、説明責任を果たす

Ⅲ 重点目標達成のための具体的方策（例）

1 「進歩したい」「役立ちたい」と努力するチャレンジに「グッジョブ」!

(1) 自ら学ぶ子の育成【学びづくり部、校内研修】

- ア 単元構想を工夫し、児童の思考の流れに沿った「主体的・対話的で深い学び」を企図する。
- イ ICTを積極的に活用し、「個別最適な学び」を推進する。
- ウ 目標、学習問題、評価の一体化により、付けたい力を確実に付ける。
(本時の目標＝行動目標＝評価規準の明確化)
- エ 「読む・書く・話す・計算する」「描く・作る・跳ぶ・走る」などに必要な基礎的知識・技能の内容をおさえて、確実に定着させる。(ぐんぐんタイム)
(手に入れた力〔～ができる、～すればできる〕を児童の中に意識させる。)
- オ 知識や既習経験を生かし(活用し)、筋道立てて考え、判断し、言葉でまとめ、言葉で表現する経験を数多くさせる。(表現力の育成)
- カ 子どもにわかりやすい目標を与え、努力の結果を数値化する。
(学力に応じた指導の工夫、けてぶれ学習等)
- キ 知的経験、読書、語彙の獲得の工夫などを通して、学びの裾野を広げる。
- ク 学習用具の準備の徹底、教室の学習環境整備をする。

(2) 子どもが主役、自分たちで考え創りあげる学校行事・特別活動【心・体づくり部】

(グッジョブカードの活用)

- ア 主体性、自己存在感、自浄能力を高める児童会活動や行事を工夫する。
(南小パワーアップ大作戦、ペア活動、異学年との交流等)
- イ 自己肯定感の土台となる基本的な生活態度(時間を守る、人の話を黙って聞く、きれいにする掃除、場をわかまえた態度・丁寧な言葉、小笠南小の約束)の育成への取組を継続する。なぜそのようにすることがよいのかまで、丁寧に指導する。
- ウ 人間関係形成(コミュニケーション)の力を育てる「言葉のキャッチボール」を大切に
する。「ありがとう」→「どういたしまして」
- エ 失敗から学ぶ経験を意図的にさせ、自分の目標に向かってやり通す強さを育てる。
(適度なストレスを与える)
- オ 自分の思いをはっきり伝える強さとともに、相手の思いを受けとめ、自分をコントロール
することができるしなやかさを育てる。
- カ 小学校での「生き方(進路)指導」の必要性を認識し、充実を図ることで、将来への
「夢」や「希望」「こころざし」を育てる。
- キ 地域や地域の大人との関わりを工夫し、自分が住む地域への誇りや大人へのあこがれを
育てる。(総合的な学習)
- ク 体験や交流の中で一人一人の世界を広げ、関わる中で学ばせる。
- ケ 6年間を見通して意図的・計画的にリーダー育成をする。
(リーダーを支える人材、集団の意識を育てる。)
- コ 自分の周りにいる人が「見える」見えたらどう行動すればよいか「考える」ように、場を
とらえて全職員が指導する。
(あいさつ、会釈、人が話している間をさえぎって通らない等)
- サ 健やかな体を育てる。
 - (ア) 目標をもたせ、ふさわしい方法で鍛える。
 - (イ) 自分の体の状態に関心をもたせ、適切に自己管理できるようにする。
 - (ウ) 危険予測ができ、予測に基づいた行動がとれるように、日常生活における継続的な指導をする。

(3) 「元気で明るいあいさつ」と「美しい日本語」【教育活動全体】

- ア いつでも、どこでも、誰にでも「元気で明るいあいさつ」ができるようにする。
- イ 時と場にふさわしい美しい言葉が行き交う場づくりと継続的な指導をする。
授業の言葉、大人との会話は丁寧語で話す。
- ウ 職員も社会人として正しい日本語を使う。

2 岳洋学舎の取組を通して、地域や他校とつながることで「グッジョブ」!

(1) 地域と共に、子どもを育てる

- ア 保護者に「見える」教育活動、中間評価と進捗状況の公開で学校、保護者、地域の連携・協力の具体を示す。
- イ 学びに価値ある「ひと」「もの」「こと」の発掘と、豊かな関わりの中で教育活動を推進する。
- ウ 地域社会に進んで関わり、地域の財（「ひと」「もの」「こと」）を生かす。

(2) 岳洋中、小笠北小、小笠東小、こども園との一貫教育を進める

- ア 職員同士のつながりを深め、めざす子ども像を共有する。

3 信頼される、頼もしい教職員に「グッジョブ」!

(1) 教師として大切なことを意識する

- ア 使命感（子どもたちの未来をつくる仕事に、矜持をもって打ち込む。）
- イ 倫理観（いつでもどこでも、職員モラルの向上に努め、信頼関係を高める。）
- ウ 専門性（授業力、生徒指導力、コミュニケーション能力を向上し続ける。）

(2) 校内研修の充実と研修の日常化で「授業力の向上」を図る（表現力の育成）

- ア 授業が子どもの進歩につながっているか。（「もっと学びたい」という思い）
→ 良さと課題を振り返る。
- イ 研修の積み重ねを実感する。（「対話で解決」「子どもの主体的なiPadの活用」）
→ 研修主任のリーダーシップ

(3) 働き方改革で、ゆとりの時間や自分を高める時間を生み出す

- ア 睡眠、心身の健康、笑顔なくして、質の高い授業や子どもとのよい関わりは生まれない。
- イ 自分が人間として成長するための時間も確保することで、子どもたちによりよい指導をすることができる。
→ 子どもたちのための「働き方改革」へ意識を変えていく。
- ウ 「働き方改革＝学校経営の改革」である。
→ 学校教育に本当に必要なことは何かを常に考えていく。
職員が充実した毎日を送ることができるような教育課程を編成する。

4 生徒指導の基盤＝特別支援教育の充実で「グッジョブ」!

(1) 人間尊重の教育を基盤とする

- ア 特別支援学級を本校の宝とし、皆で暖かく支える。
- イ 支援級の子ども一人一人をかけがえのない存在として思いやる心を育てる。

(2) どの子にも特別支援教育の考え方で接する

- ア 一人一人の子どもの良さや成長に気付く目（心）をもつ、もたせる。
- イ 子どもを認め励まし、自己肯定感を高める。
- ウ 子どもと教師、子ども同士の温かな人間関係を築く。

(3) 個に配慮した的確な指導を、全職員の共通理解と組織的な対応で進める

ア 子どもと対話し、困り感を共有する。

イ ゆっくりはっきり話す。

ウ 視覚的な支援、動作化、掲示物等を工夫する。

5 安全・安心な教育環境整備で「グッジョブ」!

(1) ユニバーサルデザインの考え方を生かした教育環境整備

ア 学習や生活の場で「視覚的な整理、ルールの整理」を行い、どの子どもも混乱せずに活動できる環境を整える。

イ 危険予測及び危険回避能力を育てる工夫と大人の見守りの連携実践をする。

ウ 環境美化に努め「気持ちよさ」に気付く感性を育てる。

(率先垂範 師弟同行を基本とする)

(2) 保護者や地域に対して、説明責任を果たす

ア 市や県からの配当予算や保護者からの預かり金は、説明ができる計画的かつ効果的な執行をする。